

OPTA 新聞「ましみず」への校長寄稿内容

未来を創り、担う皆さんたちへ

みやき町立中原中学校 第29代校長 石橋節二

令和3年度も昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のため入学式などの儀式的行事や修学旅行や体育大会、文化発表会などの学校行事を縮小しなければなりません。生徒の皆さんたちには活躍の場を十分与えることができず、大変申し訳なく思っています。また、そういう状況の中でも保護者の皆様や地域の皆様には、日頃から本校教育推進にいろいろな面で支えていただき、ありがとうございました。

本校の学校教育目標は、「ふるさと中原を担う生徒の育成」～自律と共同を通して～です。皆さんたちは、学校生活のあらゆる場で自律（自分をコントロール）する経験や共同（仲間と活動）する経験を通して、大人になる準備をしてきました。また、ふるさと中原に誇りをもってもらいたと思い、全校集会や学校だよりで学校の歴史や校章の由来、校歌、ふるさと中原に関する歴史や偉人、方言、名所や神社等の話を紹介してきました。学期の節目・節目の始業式や終業式では、学習面や生活面での振り返りや新たな目標をもつことの大切さを伝えるために、古賀稔彦氏や洪沢栄一氏、三浦雄一郎氏、原晋氏（青山学院大学 陸上競技部 長距離監督）、バドミントンの桃田選手や奥原選手の話为例に挙げ、夢（目標）を持ち、小刻みな実践目標をたて、実行（努力）することの大切さを紹介してきました。

皆さんたちは、中学卒業後、高校に進学したり、中には大学で学んだりする人もいるかと思いますが、やがて社会に出ることになります。最近、よく話題にあがるのが若い人の離職率の高さです。いろいろな理由があり一概には言えませんが、安易な気持ちで自分に合った仕事ではなかったからという理由だったら考えるべきだと思います。現在働いている大人の方々に、最初から自分に合った仕事に就いている人はどれくらいいるのでしょうか？どの職業も、厳しく辛いことがあります。また、自分が現在持っている力を十分に発揮できない部署への転属も、人事上あるかもしれません。しかし、そういう中で、その仕事の喜びや自分の存在意義を見つけることが大切で、そのことが次への原動力となって、その人の成長につながっていくのだと思います。「やり甲斐」や「働き甲斐」は、地道な努力の積み重ねの中から自信とともに芽生えてくるものだと思います。以前、学校だよりで紹介しましたが、「努力の上に辛抱という棒を立て」（佐賀新聞 有明抄「桂 小金治さんの話」）、これからの生活の中で「やり甲斐」や「働き甲斐」、そして「生き甲斐」を見つけていってほしいと思います。

皆さんたちは大きな可能性を秘めています。その時々々の試練にきちんと向き合い努力を継続することで、自分をつくり磨き上げていってほしいと思います。そうする中できっと道が開けてくると思います。

※ 右の【社会に出てもガンバル象】は、毎年卒業生に贈っているものです。

私は今年の3月で定年退職しますが、ふるさと中原、さが、そして日本の未来を創っていく皆さんたちのいろいろな分野での大いなる活躍を期待して、皆さんたちへの贈る言葉としたいと思います。

自律・・・自分で自分の行為を規制すること

共同・・・一緒に事を行う。同等に関わる。

広辞苑より



【社会に出てもガンバル象】